

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 6 月 30 日

学校法人 宮島学園

学校関係者評価委員会日時 令和7年6月26日(木) 16:00～18:00 場所:学園本部会議室(リモート会議)

会議出席者 星野 次郎(司法書士) 嘉藤田章博(卒業生・就職先)

(敬称略) 五味川博都志(町内会長) 濱田 一康(就職先)

学校側参加者 諏訪雅英(理事長)・高野佐利子(学校長)・田村 中(学校長)・笹岡 親(副学校長)

目 的

- 1 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- 2 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- 3 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

1 令和6年度の重点目標

社会ニーズに必要な人材を育成し、業界の即戦力として活躍できる教育活動推進のための学習環境の構築と職員の資質向上を目指す。

2 令和6年度の経営方針

学校運営に関する各種制度及び規定関係を見直し、入学者数の増加に繋がるよう学校運営体制を強化する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A・B・C 採点)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	重点目標の内容は、学校や学生の実態から見て、適切である。	A	コロナの影響等により、集団生活に適応できない生徒が増えている中、教務で連携を取りながら一人一人と相対しての授業の取組ができた。	A	A
	学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	B	年度初めに、学生に対してはロングオリエンテーション、保護者には入学式に保護者会を開き、学校の理念・目的・育成人材像・特色などを時間を設けて説明した。	A	B
学校関係者評価者による意見		1人1人の学生と向き合い、学生個々の個性を尊重しつつ、指導している様子が見られ良いと思う。			
教育指導	人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	B	業界で活躍している講師、卒業生を招き授業を組んでいる。	B	A
	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	A	3校合同の利点を生かし、大勢の来客を招いてのイベントを行ったが、学生の達成感は満足できるようベストな体勢で行えた。	A	A
学校関係者評価者による意見		少数制の体系での授業は、学生にとっていい環境にあると思うし、業界で活躍している卒業生の生の声を聞けるのは、いい刺激になっていると思う。少人数の中大きなイベントもいろいろ工夫しながらよくやったと思う。			
学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	A	校外実習やインターンシップを組入れ実体験することにより希望する企業が明確化し内定に結びついた。	A	A
	学生に対する経済的な支援制度は整備されているか。	A	修業支援制度を申請し、給付金奨学金・授業料減免制度を取入れており、年度途中で学費の支払いが困難になった学生にも奨学金の手続きを勧め経済的負担を軽減することができた。	A	A
学校関係者評価者による意見		修業支援制度の導入により入学金免除、授業料減免等の支援が、より経済的な支援になった。また、学園独自の高校推薦・特待生制度等により学費の一部が免除になる制度も、保護者の学費負担の軽減になっていると思われる。			
改善策・次年度に向けた取組					
・3校合同の校舎の特性を活かし、各校とコラボレーションした実践店舗の実施やインターンシップ等学内外の教育体制のより一層の充実を図っていきたい。					
・移転による光熱費等の経費削減はできたが、少子化の現状から財務は依然厳しく、又、物価高騰により実習費等の負担が増えていく中で月別の経費管理をさらに進めていきたい。経費削減にも限度があるので、バランスを見て、取り組んでいく。					
・学生数の減少による経営悪化を改善するためにも、SNSやHPの充実、早期の広報活動を展開し生徒数の増加を図っていききたい					